

テロ負傷者と戦傷負傷者

過去、テロによる負傷者は戦争による負傷者は似た多パターンを示すと仮定されていたが、これは違うと早期から明らかであった。テロに関連した外傷は戦傷とは非常に異なることを理解するには独自の特性が必要である。

テロ負傷者	戦傷負傷者
<ul style="list-style-type: none"> ● しばしば都市の中心で起こる ● テロ攻撃は混雑した都会の環境で行われるため、ほとんどの場合救出救助や後送はすぐ行われる ● 負傷者の現場から病院までの時間は非常に短く、救命のチャンスが増え、現れている状況の側面を変える ● 爆風で粉々にならない時や重要臓器の損傷がなければ、通常重篤傷病者は蘇生を試みれる時間内に病院に到着する ● 市民が対象で防護服を着用していないので、兵士に比べるとより体幹や頭部の外傷が多い ● 幼児から老人、男性・女性、健康人・病人負傷者の年齢、性別は様々である。 ● 最近のテロは狭隘空間において金属の破片を入れて強化した爆弾で特徴づけられ榴散弾や重篤な爆風と合併している。 ● 病着のパターンが違う。1個の出来事で平均45名の負傷者が発生し病院の負担を軽減するにはトリアージが有効 	<ul style="list-style-type: none"> ● 数分で大病院に行ける都会の中心で起こることは稀 ● 戦闘のため負傷者は救助が安全になるまで後送されない ● 戦傷者は通常出血により死亡する ● 通常は対象は兵士のため男性で、大抵は若くて健康である ● 大抵の戦争では断片や高速度銃弾で負傷する